

文化財を科学する

— 考古学と分析化学が解き明かす歴史 —

文化財は博物館で「見る」ものというイメージがありますが、科学の力で「調べる」ことで、材料や作り方、生産地など、目には見えない歴史の痕跡を読み解くことができます。

本講演では、古代ガラスや美術品を題材として、考古学者と科学者が協力して進めている文化財研究をご紹介します。理系と文系、それぞれの視点が結びつくことで生まれる新しい発見や、大学で学ぶ学問の魅力についてお話しします。



理系・文系の進路を考えている皆さんにも、新しい学びの可能性を感じていただければ嬉しいです。

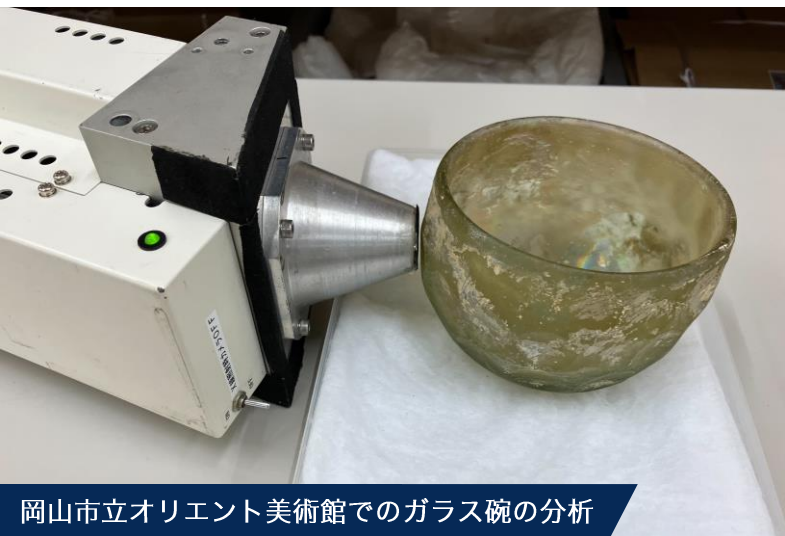
講師

阿部 善也

あべ よしなり

東京電機大学

工学部応用化学科 助教



岡山市立オリエント美術館でのガラス碗の分析



古代エジプト美術館での木棺の調査

日時

9月19日 (土)

14時30分～15時30分

14時より開場

場所

東京電機大学中学・高等学校
小ホール

定員

なし

理系と文系が出会うと、
歴史がもっと面白くなる。

歴史の謎を解き明かす研究の世界を
一緒にのぞいてみませんか？
歴史や科学に興味がある方
ご参加をお待ちしています。

お気軽にご参加ください！

どなたでもご参加いただけます (申込不要)